

頑張る

農業法人

安全・安心の丹後コシヒカリや野菜の有機栽培に取り組み一方、農作業受託で地域農業を守る京丹後市久美浜町女布(によ)の農業法人「㈱エチ工農産」。代表取締役の越江雅夫さん(62)は「法人化で信頼が高まり、受託も増えて経営は順調」と語る。

長男の昭公さん(35)が就農するなど地域農業の中心的存在として期待される。

女布集落は同町北東部に位置し、里山麓の小盆地。越江さんは両親が70㍎ほどで米作りをする農家に生まれ、高校を卒業して旧・久美浜町農協に勤務した。営農担当5年後に親戚が経営する製材工場で働いた。「田植え、稲刈りは仕

事を休んでやっていたが、そのうち農作業受託も増えた」と、農業への関わりが深まってきた。

1994年に近くの里山が国営女布団地として農地開発されたことを契機に、近くにライスセンターを設置した。

地元の農家からの利用の要望も高まり、受け入れようと決心し、信頼と経営の向上を目指して、2007年に家族で株式会社を立ち上げた。

役員は3人で、昭公さんと、雅夫さんの妻・敏江さん(62)が取締役。昭公さんの妻・絵梨さん(34)と男性3人が正社員で、農繁期には2人を臨時雇用する。

高齢化となった80戸以上の農家から受託を含め50㍎の水田、7㍎の畑を

株式会社 エチ工農産

京丹後市 久美浜町

有機JAS認定の無農薬米圃場を背景に越江さん(前列中央)敏江さん(同右) 昭公さん(同左)とスタッフ(後列)



受託増え地域けん引

管理する。環境へのこだわりにも力を入れ、水稲は除草剤1回だけの使用。環境へのこだわり、有機栽培にも取り組む。また、90㍎は完全無農薬栽培で、昨年「有機JAS」に認定され、全

エコにこだわり経営向上

畑でも有機質肥料で日の菜、聖護院だいこん、タマネギ、ナスなど多品目を栽培する。日の菜はJA京都を通して漬物業者に出荷している。

こうした環境に優しい農業の取り組みにより、魚や虫が増えたこともあり、これを求めてコウノトリも飛んで来ている。

同地域では、獣害対策が課題で「電柵などを張ってもイノシシ、鹿が入って稲が倒され、野菜も食害に遭っている」と肩を落とす。だが「法人化で受託面積が増え、設立当時より収益も大幅に増えた」と順調だ。「将来は加工場を整備し、野菜加工などで付加価値を高めたい」と意欲を高める。

昭公さんも「父が築いたことを続け、安心な農産物の生産にこだわりたい」と話す。

▽法人所在地 京丹後市久美浜町女布684。電話 0772(84)0625。